

県立高等技術専門校施設内訓練の充実策(訓練ビジョン)の策定について

- 技術進歩や、関係業界の期待等を踏まえ、専門校で育成していく人材像を明らかにし、各訓練科の訓練充実の方向性等を「訓練ビジョン」として取りまとめた(初策定)。
- 対象期間は令和2年度から5年度までの4年間とし、今後はこのビジョンに沿って訓練内容の充実に努め、毎年度その進捗状況を点検し、取組みを推進していく。

普通課程(訓練期間2~3年)

短期課程(訓練期間1年)

自動車車体整備科

自動車整備士、車体整備士を育成(期間3年)

電気配管システム科

電気工事士、管工事士を育成(期間2年)

総合建築科

木造建築物等の建築大工を育成(期間2年)

販売実務科

軽度の知的障がいのある方を対象に
就職に必要な実務訓練を実施(期間1年)

育成する人材像(科共通)

今回設定

志高く、高い技能と現場対応力を有する人材

豊かな社会性を持った人材

- 基礎技術を確実に習得し、仕事の現場で活躍するために必要な高い技能等を身に付けた人材
- 修了後に1級自動車整備士、第1種電気工事士、1級技能士(建築配管・建築大工)等の資格取得に挑戦する高い意欲を持った人材
- 広い視野と探究心を備え、実践の場で発生する課題・問題を自ら発見し対応できる人材
- 技術者が持つべき倫理観を備えた人材
- 礼儀とマナー、コミュニケーション能力を兼ね備えた人材

最近の
技術進歩

- ・環境対応の技術革新(次世代自動車普及)
- ・電子制御技術高性能化や安全性能進化
- ・通信技術の導入
- ・金属接合、接着技術、塗装方法の高度化
- ・ポデー新素材の導入

本県関係産業
の期待・要望

- ・就職先決定前のインターンシップ
- ・スキャンツール点検技術の習得
- ・個人情報保護・管理

各訓練科で
育成する
人材像

今回設定

- ① 新技術に対応した整備技術を身に付けた人材
- ② 就職内定先の技術や業務に即したオーダーメイド型訓練の実施による即戦力人材

- ・ユニバーサルデザイン設備機器の普及
- ・太陽光発電設備の施工拡大
- ・IoTと連動したスマートホーム技術の進展
- ・耐久性、耐震性に優れた配管材料導入

- ・基礎技術の確実な習得、コミュニケーション能力
- ・関係資格の取得と実践的訓練の実施
- ・業界で活躍できる人材育成(競技大会参加要請)

- ① 建築設備工事全般に対応できる、施工管理技士(電気・管工事)に必要とされる基礎知識・技能(技術)及び関連資格を身に付けた人材
- ② 新築工事のみではなくリニューアル工事も含め、多様な現場で、施工上の問題・課題を自ら発見し、考え、対応できる人材

- ・プレカット住宅の主流化
- ・様々な建築工法の普及
- ・接合金物の進化
- ・基礎パッキンの開発・普及
- ・集成材の普及
- ・手書き図面からCADへ
- ・ベタ基礎の主流化
- ・根太レス工法普及

- ・基礎技術の確実な習得
- ・離職防止・職場定着の強化
- ・地盤調査等に関する知識、現場を想定した熱中症対策
- ・現場に対応できる人材
- ・接客対応技術の習得

- ① 古民家再生から現代住宅に対応できる建築大工に必要な基礎知識・技能及び関連資格を身に付けた人材
- ② 地震等自然災害からの復興や高齢化社会において建築が抱える諸課題に対応できる人材

ア 自動車の進化に対応する技術の習得

- ◇ 環境問題に対応する技術
- ◇ 次世代自動車
- ◇ 電子制御技術、通信技術、電動技術
- ◇ 自動制御技術
- ◇ 金属接合技術、高度な塗装方法技術
- ◇ 樹脂素材の補修方法技術
- ◇ 個人情報の保護・管理

イ 県内企業の即戦力となる人材育成

- ◇ 就職内定先の企業が求める技術へのオーダーメイド対応
- ◇ 就職後を見据えたインターンシップ
- ◇ 業界動向や技術革新の最新情報取得

ア 高効率・省エネ機器の施工技術の習得

- ◇ 高効率・省エネ機器 施工技術
- ◇ インバータ制御 施工技術
- ◇ IoT、ZEH、HEMSなど建築設備に
関連する先進システムの模擬家屋実習

イ 建築物の長寿命化に対する老朽化補修・リニューアル技術の習得

- ◇ メカニカル継手 施工技術
- ◇ ライニング鋼管 施工技術

ウ 1級技能士の技能検定実技課題の実施 エ 各種競技大会を活用した技能習得レベルの向上等

- ◇ 技能五輪全国大会等に向けた特訓
- ◇ 建築設備工事現場の見学実習
- ◇ 業界動向や技術革新の最新情報取得

ア 一般住宅における金物に頼らない伝統構法の基礎技術の確実な修得

- ◇ 新築、リフォーム、古民家再生工事の見学実習
- ◇ 模擬家屋建築実習(住宅1棟)による技能習得

イ より高度な建築知識・技術の習得

- ◇ 3D-CAD
- ◇ 耐震構造や補強技術
- ◇ 地盤調査及び地盤改良工事に関する知識
- ◇ バリアフリー改修工事等
- ◇ 広い視野を持った大工育成
- ◇ 森林保全・林業振興施策に関する素養
- ◇ 業界動向や技術革新の最新情報取得

ウ 関連資格等の取得支援

- ◇ 玉掛け作業、足場の組立て等作業の資格

◇ 接客対応やコミュニケーション能力等の習得

◇ パソコン操作、ビジネスマナー、モノづくりの基礎的素養の習得

◇ 4S(整理、整頓、清掃、清潔)の徹底

科を設置(H16年)から現在までの環境変化

- ・障害福祉サービス(就労移行支援事業、就労継続支援A型、同B型)の充実
- ・法定雇用率の改定等
- ・特別支援学校の充実等

科充実に向けた今後の方向性

1 科の役割等

一般就労を目指す(支援)ことを明確化する。

2 入校対象者

“軽度の知的障がいのある方”としている現在の規定を見直し“知的障がいのある方”(軽度を削除)とする。

3 訓練内容

- ・「事務」「物流」「販売」「製造」の4つの職種分野を想定した訓練内容の充実を図る。
- ・また、求職者や事業主のニーズを踏まえ、高等支援学校や就労移行支援事業との棲み分けを図り、より実践的、専門・特化的な訓練になるよう取り組んでいく。

4 充実を図るための仕組み

- ・修了生の就職先事業所から意見聴取し、訓練へのフィードバックを図る。
- ・高等支援学校等との定期的意見交換を実施し、入校生の接続や訓練棲み分け等の調整を図る。

5 指導員の資質向上/関係者への周知活動の強化

6 受入体制

寄宿舎の建物再整備により受け入れ可能となるよう設備面等を検討していく。

7 修了者へのフォロー

関係機関の協力を得ながら就職先への職場訪問等のフォローアップを継続する。

8 科の名称について

訓練内容や就職先(販売関係職種に限らずより広範である状況)に即するよう科名変更(検討)する。